【特別支援学校用】

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立中原特別支援学校　鳥栖田代分校

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

1　前年度 評価結果の概要	・次年度末まで校舎の大規模改修工事等が続くことから、工事の進捗状況に応じて、安全・安心な学習環境の確保に引き続き努めていく。また、教室の引越しなどの業務増大を見据え、早めの対応で時間外業務の削減に努める。 ・学習指導要領を踏まえた効果的な授業及び支援のあり方の研究を継続し、教職員の特別支援教育に関する専門性の向上を図るとともに、一人ひとりの児童生徒に応じた授業及び指導の充実を図る。 ・教職員の研修の機会を確保し、評価規準を意識した授業の改善を図る。特に、主体的に学ぶ意欲を高める授業展開の工夫やICT活用の推進を行う。 ・令和８年度の鳥栖特別支援学校開設に向けて、特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。
2　学校教育目標	**一人一人に応じた指導・支援をとおして、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、明るくすこやかで豊かな心をもち、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。**
3　本年度の重点目標	「児童生徒の豊かな生活と成長の保障」 ①　専門性の更なる向上と教育活動への反映 ②　個に応じた進路指導の充実 ③　特別支援教育のセンター的機能の充実

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒が適切な指導・支援を受けることができたと回答した保護者を75%以上とする。 ○適切に個別の指導計画を活用することができたと回答した教員を80%以上とする。	・個別の指導計画作成の意義、手続きを職員に周知する。 ・年3回個別の指導計画に基づく検討会をもち、複数の視点から児童生徒の指導や評価を客観的に行う。 ・PDCAサイクルを活用し目標、手立て、変容について共有する。	A	・アンケートの結果より、職員83%保護者88%の高い割合で個別の指導計画の作成の意義を理解し、適切に活用することができていると分かった。継続して児童生徒の確かな学力の定着を図るために、意義ある個別の指導計画の活用を探究していきたい。	A	・「高く評価できる」「評価できる」と職員100%、保護者96%の高い割合でアンケートに回答したことが分かった。適切に個別の指導計画を活用していることが明らかになった。今後も児童生徒の確かな学力の定着を図るためのツールとしてよりよく活用していきたい。	A	・個別にできる範囲の学習内容の宿題を毎日楽しくすることで、自信につながっています。 ・数値目標を達成しており、かつ保護者からの評価も高いことから、学力の定着につながる授業ができていると思われます。	**教務部**
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かなものを身に付ける教育活動	○学校教育全体において、「豊かな心」を育む教育の趣旨に基づいて教育活動を展開していると回答した保護者及び教員を75%以上とする。	・人権・同和教育に関する校内研修会を実施する。 ・児童生徒に思いやりの心を育む委員会活動や集会を実施する。 ・保護者や地域の方と連携した校外学習や交流行事を実施する。	B	・7月に、人権・同和教育に関する校内研修会を実施した。また、校外学習や保護者参加行事も予定通り実施できている。	A	・アンケートにおいて、「豊かな心」を身につける教育活動が行われているとする保護者が94%、職員が96%だった。 ・研修動画の視聴により人権・同和教育の各自での職員研修を行った。 ・自分や相手を大切にすることについて日常の必要な場面で話をし指導を行った。性教育や朝の会等で考える機会を設けた。	A	・性教育については、保護者の要望が多かったので、学校で講師を呼んでいただいて保護者も参加することができてよかったと思う。 ・数値目標を大きく上回っており、研修効果及び指導の成果が出ていると思われます。	**生活指導部**
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について、共通理解のもと組織的な対応ができていると回答した保護者及び教員を75%以上とする。	・職員間での積極的な情報交換や毎月のいじめ覚知・認知件数調査を実施する。 ・年2回の保護者アンケートを実施するとともに、毎日の保護者との会話や連絡帳を活用して情報の共有に努める。	B	・7月のアンケート調査や学校生活の中で5件のいじめを覚知、認知し、組織的な対応を行った。 ・いじめ防止等について、共通理解のもと組織的な対応ができていると回答した保護者及び教員が70%以上であった。	A	・アンケートにおいて、いじめ防止について組織的に取り組めていると回答する保護者が85%、職員が96%だった。 ・覚知、認知をしたいじめ件数は11件であった。 ・保護者やデイサービス職員と日々の連絡帳や送迎時の会話を通して日頃の様子について連絡を取り合った。 ・保護者アンケートを実施した結果、6件のいじめ覚知・認知を行った。 ・6件の覚知・認知後、全職員へいじめ防止への組織的な対応や対策についてあらためて共通理解を行った。 ・全職員でいじめの適切かつ積極的な認知が行われるよう理解を深めた。	A	・数値目標を大きく上回っており、取り組みが充実していると思われます。ただ、早期発見、早期対応はしているものの、いじめ覚知・認知が数件発生していることから、更なる取組をお願いします。 ・いじめ覚知・認知については、発生数が多い程取組が充実しているということを会議において理解しました。	**生活指導部**
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「教員は児童生徒のよいところを認めてくれていると思う」と回答した保護者が75%以上である。 ◎「将来の自立と社会参加に向けて、組織的で効果的な教育活動ができている」と回答した職員が75%以上である。	・進学や将来の自立に向けて、児童生徒や保護者に情報を提供する。 ・児童生徒の将来の自立と社会参加を意識した授業に取り組む。 ・児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う授業を仕組む。	B	・保護者、職員共に「高く評価できる」「評価できる」が全体の93%を占めた。保護者は「高く評価できる」が61%を占めていたが、教員は「高く評価できる」が29%であり、将来の自立を意識した授業づくりが、今後の課題である。 ・8月に本校舎主催の進路講演会を分校の保護者にも案内し、参加していただいた。今後も進路についての情報提供を適切に行っていきたい。	A	・「教員は児童生徒のよいところを認めてくれていると思う」について「高く評価できる」「評価できる」と回答した保護者は98%を占めた。特に「高く評価できる」が68%であった。 ・職員は、「高く評価できる」が25%、「評価できる」は68%、「あまり評価できない」は7%であり、小中の連携も含めて、組織的で効果的な取り組みを考えていく必要があると思われる。	A	・数値目標を大きく上回っており、研修教育がうまくいっていると思われます。 ・毎日の作業を通して、少しずつ着実に、仕事をすることの意欲や自信がついてきていると感じる。	**進路指導部**
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒が70%以上である。 ○授業をとおして、健康な生活を送るための食事について児童生徒の知識と意識が高まっているとする職員が70%以上である。	・職員研修、給食試食会、食育講話等を実施する。 ・食物アレルギーについての研修を行う。 ・給食の時間をとおして、食育に関する指導を行う。	B	・保護者では「高く評価できる」「評価できる」が全体の89%、職員では93%を占めていた。一方、保護者で「わからない」「あまり評価できない」合わせて11%、職員で「あまり評価できない」が7%を占めている。今後は、食物アレルギーの研修はさらに充実させ、食育にも力を入れていきたい。	A	・保護者では「高く評価できる」「評価できる」が92%、職員においても「高く評価できる」「評価できる」が93%を占め、概ね学校の食育、アレルギー対策等は良好であると考える。今後も、食に関しての様々な発信ができるよう、外部機関や養護教諭と連携を図って進めていきたい。	A	・職員の数値目標も達成しており、保護者のアンケートの数値も高く、食育が充実していると思われます。	**保健厚生部**
	○安全な学校環境の整備と健康教育の充実	○本校の感染症対策基本方針を守っているとする職員が100%である。 ○感染症対策を含め、安全・安心な学校生活が送れていると回答する保護者を80%以上とする。	・本校の感染症対策基本方針を周知徹底する。 ・予防及び指導の徹底を図る。 ・感染者が発生した場合には、改善点を検討する。	B	・保護者では「高く評価できる」「評価できる」が全体の98%、職員では100%を占めていた。今後も継続して感染症予防や指導の徹底を図り、児童生徒が安心・安全な学校生活が送れるよう取組を進めていきたい。	A	・保護者では「高く評価できる」「評価できる」が94%、職員においても「高く評価できる」「評価できる」が97%と感染症が多くなる時期ではあったが、高い水準で感染症対策ができていたといえる。今後も加湿器の貸出や感染症予防対策の周知などに取り組みたい。	A	・保護者の数値目標は達成しており、感染症対策の徹底ができていると思われます。	**保健厚生部**
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○鳥栖田代分校は地域の特別支援教育のセンター校の役割を十分に果たしていると回答する保護者及び職員が70%以上とする。	・各職員が有する特別支援教育の専門性や知見を地域支援に活かす。 ・地域の要請に応じて、関係各機関と連携しながら巡回相談を実施する。	B	・保護者も職員も「高く評価できる」「評価できる」が全体の82%を占めていた。しかし、「わからない」や「評価できない」との意見も18%を占めていて、特別支援教育への理解啓発やセンター的機能の充実をさらに進めていきたい。	B	・保護者、職員共に「高く評価できる」「評価できる」を合わせて80%以上であった。「高く評価できる」だけに限ると、保護者は41%、職員は18%の結果がでており、職員がセンター校の役割を自信をもって役割が果たせる取り組みを考える必要がある。	B	・職員のアンケートで「評価できる」の割合が多いとのことだが、センター校の役割は十分に果たしていると考えます。	**地域支援部**
	○交流及び共同学習の推進	○学校間、居住地校交流、地域間交流をとおして、相互の理解が深まったとする保護者、職員が80%以上とする。	・年に数回、居住地校交流や地域との交流を図る場を設定し、全職員で協力して取り組む。 ・記録やチェック表を活用し、効果的な打ち合わせを行う。	B	・保護者では、「高く評価できる」、「評価できる」が全体の55%であった。職員では、「高く評価できる」、「評価できる」が全体の82%を占めていた。前期では居住地校交流などが計画段階だったこともあり、後期で各校や各地域で実施していきたい。	A	・職員では、「高く評価できる」、「評価できる」が100%を達成した。また、実際に居住地校交流などを行った保護者、教員は、実施については5段階評価で平均4.1(分掌部独自アンケート)と、活動自体への満足度や交流の深まりを実感している。来年度も居住地校交流などを進めていきたい。	A	・居住地域交流に参加したことはないが、とても良い取り組みだと思います。 ・保護者のアンケートの結果の数値が低い。職員と保護者とのアンケートの結果の差がありすぎるため、原因を少し調査した方がいいと考えます。	**総務部**
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守したと回答した職員が80%以上とする。	・年間5回以上の完全定時退勤日を設定する。 ・長期休業中における定時退勤を奨励する。 ・時間外在校等時間が月45時間を超えた職員に対する管理職面接を実施する。	B	・10月末時点で、4回定時退勤日を設定した日に定時退勤を実施することができた。 ・時間外在校等時間については、45時間を超える職員が時々いるが2～6か月の平均が80時間を超える者、100時間を超える者はいない。45時間超えの職員には管理職が話をしている。 ・働き方については、職員の意識が少しずつ変わってきている。	A	・時間外在校等時間の上限を遵守できたと回答した職員は89%であった。 ・年間6回設定していた完全定時退勤日については完遂することができた。 ・時間外在校等時間については、1～3名が45時間を超えることが時々あったが、2～6か月の平均が80時間を超える者、100時間を超える者はいなかった。 ・大きな学校行事の後や長期休業中など積極的に年休を取得する者も増え、「働き方」に対する職員の意識は変わりつつある。	A	・職員の数値目標を達成しており、職員の働き方改革が順調であると思われます。	**管理職**

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○ICT活用教育	○児童生徒の特性や合理的配慮に基づく、ICT機器の活用や支援の実施	○児童生徒の特性や合理的配慮に基づくICT機器を使った効果的な授業や支援が実施されていると回答する保護者及び職員が70%以上とする。	・職員が年2回以上は校内外ICT活用に関する研修会に参加する。 ・個別授業やTTにおいて、積極的にICT機器を活用する。	B	・93%の職員がICT利活用について高い評価をしている。一方で、保護者アンケートでは「わからない」が全体の32%であり、ICT利活用についての情報発信が今後の課題である。今後もICT機器の活用を一層進めていきたい。	B	・職員については9割以上がICT機器を使った効果的な授業・支援ができていると回答している。1人1台端末のアプリが充実し、児童生徒の実態に応じた選択、学習での活用ができていると考える。一方で、保護者については「あまり評価できない」「わからない」が29%を占めていることから、ICT利活用についての情報発信を一層充実させる必要がある。	B	・1人1台端末を使用して調べものをする授業を一度だけ見ましたが、それ以外にどのように使用されているのか（アプリ）が分からないので知りたいと思います。 ・保護者からの評価が難しい項目であり、職員の充実感と差が出るのは仕方ないと思われますが、保護者への発信をさらに充実させる必要があると考えます。	**ICT教育支援部**
○自立活動の充実	○自立活動指導の充実と教職員の専門性の向上	○自立活動に対する理解が深まり、授業実践をとおして、児童生徒の変容が見られたと回答する教職員が70%以上とする。	・ケース会議等を行いながら自立活動指導計画を作成し、児童生徒の指導に生かす。 ・自立活動の指導について、事例研究会等を行い、指導内容の改善を行う。 ・外部人材も活用しながら、自立活動に関する研修会を行う。	B	・自立活動に対する理解が深まり、授業実践を通して、児童生徒の変容が見られたと回答する教職員が75%であった。保護者からも、「高く評価できる」「評価できる」が全体の96%であった。今後も継続して児童生徒に応じた指導計画やそれに沿った教育活動を適切に行っていきたい。	A	・自立活動の指導について、事例研究会等を行い、指導内容の改善を行ったことで理解が深まったと職員89%の回答を得た。 ・児童生徒の実態を職員間で共有し、評価規準、評価基準を考えながら授業実践する研修を年間7回実施したことで、今後の指導に生かすことができた。アンケートでも実態に応じた指導計画を活用した授業実践への取り組みについて「高く評価できる」「評価できる」が保護者96%、職員100%であった。来年度も児童生徒に応じた指導計画やそれに沿った教育活動を適切に行っていきたい。	A	・職員の数値目標も達成しており、保護者のアンケートの数値も高く、指導の成果が出ていると思われます。	**自立活動部**

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・鳥栖特別支援学校の開校に向けて、鳥栖田代分校においても今年度から地域支援の部門を強化する方針であった（重点目標③：特別支援教育のセンター機能の充実）。しかしながら、分校は、人員的に非常に厳しい状況で巡回相談に行く職員を確保するのが難しかった。巡回相談には参加できなくても、コーディネーター研修会等に積極的に参加するなどして、いつでも巡回相談に対応できるように特別支援学校の教員としての専門性と力量は高めておく必要がある。（重点目標①：専門性の更なる向上と教育活動への反映） ・学校評価アンケートの進路に関する項目において、保護者から高評価（4段階評価で3.7）を得た。進路指導に関して学校に対する保護者の信頼度は高い。（重点目標②個に応じた進路指導の充実）次年度以降も引き続き充実発展させていかなければならない。 ・ICT機器活用については日評価ではあるが、日々の学習にICT機器は積極的に活用されている印象がある。授業参観に加え、学級通信等でも活用の様子については発信していく必要がある。 ・自立活動については、「時間における指導」について今後研究を深めていく必要がある。